

## 保証人の皆様へ

### — 新型コロナウイルス感染症への対応について —

東京都市大学では、コロナ禍にあって、学生の皆さんの安全の確保を最優先とし、かつ、学修に遅れが生じないよう配慮した運営を行っております。4月時点では新型コロナウイルス感染症は夏までには終息するであろうと言われていましたが、いまだにその兆しが見えず、長いスパンで新型コロナウイルスのリスクに対応した教育を行うことが求められています。

学生の皆さんにとって、若さと共にある今という時間は大変貴重なもので取り返しのきかないものです。本学では、このコロナ禍においても、決して大学での学びに欠落があってはならないと考え、また、将来、学生の皆さんが「2020年代・コロナ世代」などと呼ばれることのないよう、きちんとした十分な教育を提供することが、大学としての責務と考えています。

本学ではこのコロナ禍のもと、令和2年度の授業開始を当初予定より1か月半ほど遅らせ、5月18日からオンラインによる遠隔授業を行ってきました。広く世界を見ても、遠隔授業のほかにオプションのない状況でしたが、4月上旬の段階では遠隔授業を行おうにも教員のほとんどはその経験がなく、また、学生の皆さんの中にはパソコンなどの必要な機器が十分でない方もありましたことから、できる限りの準備を行い、かつ年度における学修計画への影響が出ないぎりぎりの日程として、5月18日を選択いたしました。

本来、このように大きく教育方法を変えるには、事前の綿密な設計と準備が必要なことは言うまでもありません。今回は緊急事態のもとでの応急手段としての遠隔授業であったとも言えますが、幸いにも大きな破綻なく第1および第2クォーターが終了できたことに安堵しております。

さて、遠隔授業については、従来の対面授業と比較してプラスとなる面があることも分かりました。チャット機能を使うことによって、質問がしやすくなり、これまで以上に双方向性が高まることや、出席率が上がったこと、授業の録画や資料のデジタル化により繰り返し学べ理解を助けること

などです。しかしながら、学生からは、慣れない画面越しの授業を立て続けに受講することの精神的負担や通常より多い(と思われる)課題や宿題などで疲弊しているなど、マイナス面の報告もありました。さらに、新入生にとっては、対面授業を経験しないまま遠隔授業を受けるという、これまでに先例のない状態となりました。

第3クォーターでは、対面授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリッド型授業を原則としています。教員が教室で講義し、それをオンラインでも配信します。学生の皆さんは教室での対面授業か遠隔授業かを選択することができます。第1、第2クォーターでの遠隔授業で見えてきたプラス面、マイナス面を考慮した授業形態と言えます。もちろん、いずれの授業を選んでも修学上の不利が生じないよう、万全の配慮をいたします。

後期へ向け全学生を対象に実施した予備調査の結果、対面授業を希望する学生は教室容量の50%以下であったことから、ソーシャルディスタンスを確保しての講義が可能となりました。また、公共交通機関のラッシュを回避できるよう、授業の開始と終了の時刻を30分繰り上げるなど、通学における安全対策も行いながら、授業総時間数が減ることに対しては、オンデマンド形式での授業配信や、課題などで補うこととしています。

現在の状況からは新型コロナウイルス感染症がいつ終息するかがわかりません。我々は「With CORONA」における「New Normal」を探る必要があります。そこでは対面授業、遠隔授業の使い分けや併用によって、学びの多様化、個別化、効率化、費用対効果の向上を図り、より多くの学生にとって教育の満足度が高いものとなることが重要であると考えています。

保証人の皆様には、ぜひ、この環境下における本学の教育に関心をお寄せいただくとともに、ご意見をお聞かせいただきたくお願い申し上げます。

東京都市大学 学長 三木千壽